



大学院便り



平成 22 年度大学院修了式記念写真 (H23. 3. 25 管理棟 2 階)

大学院研究科長挨拶

大学院研究科長 井上 孝

学校教育法によれば、大学院は学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とするとあります。

さて、大学の使命は、教育、研究、臨床の3本柱と言われて久しいですが、私は、基本は研究であると思っています。研究ができれば、ロジックが成り立ち、自然と教育ができ、そして患者さんへも説明ができるはずだからです。博士とはそんな人物であるように思います。私は6年間、千葉病院で医療安全管理を担当し、患者の安全と医療の質の保証を守るために微力を尽くしたつもりです。その中で、大学院生の歯科医、博士号をもった歯科医の、博士と医師の乖離が気になりました。博士とは立派な論文を書いた者をいい、立派な歯科医師でなくてもいいかのような錯覚に陥っているのではないかと感じたのです。

私は、学生時代に少林寺拳法部に所属していました。その教えには、「己こそ己の寄るべ、己をおきて誰に寄るべぞ、良く整えし己こそ、真得がたき己なり」という文句があります。こんな心の大学院生が育ってくれば、次世代の歯科は大丈夫のように思います。また、私は、学生時代茶道部にも所属していました。そこから学んだ利休の「七則」のような大学院生が育ってくればとも思っています。利休は、「お茶は、服の良きように点て、炭は湯の沸くように置き、花は花のように生け、夏は涼しく、冬は暖かく、時限より早めに、そして降らぬとも傘の用意、という客をもてなす秘事である」と教えたのです。つまり、「型やルールにそってお茶を点てることも重要だが、それが茶道の本質、本来の目的ではない。お湯を沸かしやすくするために炭を置いてゆくことが目的であるのに、型を守ることにのみ心が偏ってしまっていては、行動がおかしなものになってしまう。花は野山に咲いている姿のままに活けること。盆栽や華道のように、そこに人間の意図を盛り込まない。あるがままの自然な姿を活けてゆく。夏涼しく、冬暖かく、そして時間に余裕をもつことで心にゆとりをもつができる。傘も急の雨にも慌てないように、先々のことまでも気を配る」ということです。井上家の家訓では、「怒るな、働け」に類似するところがあると思っています。結論として、私は、学校教育法にうたわれている博士である前に歯科医師たれ、もちろん、歯科医師である前に人間たれと思っています。そんな大学院生が育つ教育、臨床、研究環境を作れば最高です。微力ながら、東京歯科大学大学院研究科のために尽くすつもりです。

大学院機構改革について

私が大学に残った昭和53年の時は、大学院も助手も同じようなものでした。換言すれば大学院生はただ働きをする助手だったのです。それから30数年経った平成23年の今、諸先生がたのご尽力により大学院はアドミッションポリシーを持つ確固たる地位を築いています。それは、「大学院歯学研究科では、歯学および歯学に関連する学問領域において、理論応用を教授かつ研究し、広い視野に立って精深な学識を授け、その結果、人類福祉の増進、延いては分化の進展に寄与するとともに、国際的な視野、優れた研究能力、豊かな学識を有する研究指導者および歯科医学研究に精通した高度な専門職業人を養成する」ということです。東京歯科大学では、これを実行に移すために、平成23年度よりカリキュラムを変更させました。大変なこともあるかと思いますが、上記のような人間になることに確固たる目的を持って精進して欲しいと思っています。(井上 記)

平成23年度（以降）の大学院カリキュラムについて（H23.3月現在）

1) 本カリキュラムは、平成23年度入学者すべて（一般・社会人・口腔がん専門医養成コース）に適用する（平成22年度以前の大学院生は、入学時のカリキュラムに則り履修するが、新カリキュラムの授業科目を必要回数受講することにより所定の単位を認定する）。

2) 新規科目の設置

毎週水・木曜日を大学院講義の時間として設定する。

1 時限目：16:30～17:30

2 時限目：17:40～18:40

①大学院講義

・大学院講義Ⅰ（必修：テーマ別講義）：

Biomedical Communication（研究情報学・社会科学）

Cell Biology and Biomaterials（細胞学・材料学）

・大学院講義Ⅱ（選択：テーマ別講義）：

Pathological Biology（病態学）

論文の書き方

大学院指導教員による講義（現在実施している大学院共通講義と同様に行う）

②講義の単位認定基準

【大学院講義Ⅰ】

・出席（70%以上の出席により、評価を得る資格を得る）

・評価（試験・レポートなど）

【大学院講義Ⅱ】

・出席（15回以上の出席で1単位、30回の出席で2単位）

・評価（試験・レポートなど）

3) 大学院セミナーについて

大学院セミナーは年12回（1回/月）を基本とし、木曜日2時限目に実施する。

うち6回を「インプラント」をテーマとして、本学指導教員が担当する。また残り6回は、基礎教授連絡会推薦で3回、臨床教授連絡会推薦で3回の外部講師セミナーを実施する（旅費、宿泊費、謝礼等支払）。

他、講座による推薦講師には、大学院セミナーとして認め、感謝状および謝礼5万円のみ支払う（開催日時は随時）。

新規項目として、東京歯科大学学会、口腔科学研究センターワークショップへの参加を大学院セミナーの単位に含める。（平成23年度以降入学者は必須とする）。単位認定に必要な出席回数は従前と同じとする。

4) 主科目・副科目のカリキュラムについて

主科目 6単位、副科目 1単位を認定するにあたり、各講座・研究室は、認定内訳を作成することとする。また、記録簿は、大学院生が管理することとし、指導教員の検印後、教務課へ提出することとする。

5) プロGRESSレポートの開催

平成23年度は試行的に実施する。来年2、3年次の大学院生に協力を募り、従前から提出されている研究課題届、研究課題進捗状況報告書にそって、テーマ別講義「論文の書き方」で実施する。

大学院移転について

1年後に迫った大学移転ですが、大学院の命題でもある研究は、東京歯科大学口腔科学研究センターに集約されることとなります。そこでは、歯学に関連した新しい事実および解釈を発見

する研究所になることを願っています。勿論講座における研究の良いところは踏襲しつつ、個人の研究の自由も奪うことなく口腔科学研究センターで、歯科に特有の課題について、新規発見、機能解析、安全評価試験を経て、付属病院での臨床試験、日常への応用が全ての研究者にとって楽しく行ってもらえればと思っています。特に若手には、自由な発想のもと、世界に羽ばたけるような人材が沢山育てばいいと考えています。(井上 記)

大学院教務部より

大学院教育の今昔 — よりよい大学院教育にむけて

大学院教務部長 東 俊文

現状の大学院教育に関して様々なご意見があろうかと思えます。大学院生は学生とは言うものの臨床現場では歯科医師として業務を遂行するわけですから、立派な社会人であるわけです。しかしその身分は非常に不安定であり、また教育環境もいわゆる徒弟制度の名残のような状況が長く続いてきました。現在そのような環境を少しでも改善し明日の未来を支えるエリートとして十二分な教育をするべきであるという潮流がようやく見えてきました。

私も30年弱前に医学部の臨床系大学院に進学しました。そこは大学院というよりは非常に緊密は師弟関係の場でありました。落語の師匠に弟子入りしたに近い感覚で、カバン持ち、愛犬の世話、食事の相伴などの日常に加えて実験のお手伝いが日々繰り返されるといった感じでした。それはそれで非常に懐かしく、美しくも感じられる素晴らしい体験であったと思います。厳しい日常の指導の合間のさりげない深い愛情には本当に感激したものです。それだからこそ日夜を問わず仕事をした記憶があります。しかし、はたして欧米の大学院生の研究生活に比べてどうかと言われると弱気にならざるを得ません。現在、特に中国、韓国の科学分野での欧米への進出はすさまじいものがあります。15年前の私の経験ですが、彼らのハングリー精神には本当に敬服したものでした。結婚しながら、大学院で研究をする彼らは明るくも常に積極的にハングリーでありました。翻るに我々日本の大学院生の環境はどうでしょうか？ 日進月歩の科学においては1番先に報告して初めて論文になる、2番では駄目なのは明らかです。師弟関係だけに依存して大丈夫なはずがありません。より積極的な勉学と旺盛な研究意欲を引き出す努力をしなければ2番目に甘んじ、ひいては研究成果を出せなくなる可能性があります。

大学院教務では、よりよい勉学環境と研究環境を大学院生に提供し、一人でも多くの学生諸君が本当に大きな成果を上げられるようにするべく、カリキュラムの充実、学会発表論文執筆の指導を行ってまいります。これから進学される大学院生の方々は厳しくなったカリキュラムに決してひるむことなく、積極果敢にチャレンジしていただきたいと思えます。現在在学されておられる大学院生の方々も現状の制度に安穩とせず、是非多くの機会を利用し最大の成果を挙げられることを期待しております。

平成22年度 大学院修了者

氏名	所属	氏名	所属
ほん だ ひで みつ 本 田 秀 光	解剖学	ご 後 とう たか し 後 藤 隆 志	歯科麻酔学
の ぐち すな き 野 口 沙 希	オーラルメディスン・口腔外科学	あき 浅 い とも ひろ 浅 井 知 宏	歯科保存学
こ しか きょう たろう 小 鹿 恭 太郎	歯科麻酔学	さか 酒 より たか はる 酒 寄 孝 治	社会歯科学

氏名	所属	氏名	所属
三條 祐介	オーラルメディシン・口腔外科学	黄 明 裕	歯科麻酔学
藤代 結香	オーラルメディシン・口腔外科学	西澤 秀哉	歯科麻酔学
松村 真太郎	オーラルメディシン・口腔外科学	金子 早知子	口腔外科学
井本 研一	歯科放射線学	洪 榮 杰	臨床検査学
中原 賢	解剖学	田井 愛子	歯科矯正学
廣木 愛実	解剖学	下島 隆志	歯科矯正学
大久保 信貴	歯周病学	内藤 紗絵	法歯学
藤田 修平	解剖学	鮫島 道長	法歯学
添田 亮平	有床義歯補綴学	柄澤 健介	スポーツ歯学
間 奈津子	歯科保存学	三島 おき攻	スポーツ歯学
手銭 親良	歯科保存学	大串 圭太	口腔健康臨床科学
森岡 俊行	口腔インプラント学	Sultan Zeb Khan	臨床検査学
高野 智史	有床義歯補綴学	しま 秀 仁	臨床検査学
多田 晃基	クラウンブリッジ補綴学	小杉 謙介	口腔外科学
石井 善仁	歯周病学	かわ 地 蒼	口腔外科学
半田 潤	スポーツ歯学	田村 直樹	口腔外科学
吉田 秀児	口腔外科学	か 文 昌	口腔外科学
三輪 恒幸	臨床検査学	塚越 絵里	薬理学
熊澤 海道	小児歯科学		

43名

平成22年度 大学院修了者 学位論文題名

	修了年次	氏名	学位論文題名
1	4年次 (H22年9月末修了)	本田 秀光	Expression of HGF and IGF-1 during regeneration of masseter muscle in <i>mdx</i> mice

	修了年次	氏名	学位論文題名
2	4年次	野口 沙希	Expression of Cytokeratin 13 and 17 in Tongue Squamous Cell Carcinoma and Epithelial Dysplasia
3	4年次	小鹿 恭太郎	Remifentanyl dose-dependently decreases oral tissue blood flow during sevoflurane and propofol anesthesia in rabbits.
4	4年次	三條 祐介	Visual stimuli associated with swallowing activate mirror neurons: An fMRI study
5	4年次	藤代 結香	Receptor Tyrosine Kinase Inhibitors Regulate Side Population Cells In Salivary Gland Tnmar Cell Line (A253)
6	4年次	松村 真太郎	Characterization of mesenchymal cell populations from buccal submucosa tissues
7	4年次	井本 研一	Potential of FLAIR in identification of temporomandibular joint effusion in comparison with T2-weighted images
8	4年次	中原 賢	Evaluation of the palatal bone for placement of orthodontic mini-implants in Japanese adults
9	4年次	廣木 愛実	A comparative study of myostatin, follistatin and decorin expression in different muscle origin
10	4年次	大久保 信貴	Coverage of gingival recession defects using acellular dermal matrix allograft with or without beta tricalcium phosphate
11	4年次	藤田 修平	Variations in vascular distribution in the mandibular anterior lingual region, which has a high risk of vascular injury during implant surgery
12	4年次	添田 亮平	Influence of chewing Forces on Salivary Stress Markers as Indicator of Mental Stress
13	4年次	間 奈津子	Differential regulation of TGF- β 1 and BMP-2/-7 on osteogenic differentiation in HPDL cells - Involvement of PI3K/mTOR/p70 S6K mechanism
14	4年次	手銭 親良	Requirement of JNK and ERK activation in BMP2/7 heterodimer induced osteogenesis in Human Periodontal ligament (HPDL) cell
15	4年次	森岡 俊行	Alignment of Biological Apatite Crystallites at First Molar in Human Mandible Cortical Bone
16	4年次	高野 智史	Influence of surface treatment on fatigue strength of Ce - TZP/Al ₂ O ₃ nanocomposite
17	4年次	多田 晃基	Influence of surface treatment on bond strength of veneering ceramics fused to zirconia

	修了年次	氏名	学位論文題名
18	4年次	石井 善仁	Effect of beta tricalcium phosphate in combination with basic fibroblast growth factor in treatment of gingival recession in dog
19	4年次	半田 潤	Influence of pre-laminated material on shock absorption ability in specially designed mouthguard with hard insert and space
20	4年次	吉田 秀児	Postoperative evaluation of grafted bone in the alveolar cleft using three-dimensional computed tomography data
21	4年次	三輪 恒幸	Behavior of rat incisor cells during the inhibition of tooth eruption <i>in vivo</i>
22	4年次	熊澤 海道	Effect of single-dose amoxicillin on rat incisor odontogenesis: A morphological study
23	4年次	後藤 隆志	Localization of ¹⁴ C labeled 2% lidocaine hydrochloride after intraosseous anesthesia in the rabbit
24	4年次	浅井 知宏	Identification and characterization of potential solute-binding protein of <i>Treponema denticola</i>
25	4年次	酒寄 孝治	Study on Effects of "Prevention of Long-Term Care" Project for Improvement in Oral Function
26	4年次	黄 明裕	Midazolam increases bite force during intravenous sedation
27	4年次	西澤 秀哉	Phentolamine Counteracts Tissue Blood Flow Reductions Induced by Remifentanyl in Rabbits
28	4年次	金子 早知子	下顎後退症患者において顎矯正手術が母音に及ぼす影響 —日本人女性10名について—
29	4年次	洪 榮杰	Increasing expression of Connexin 43 in cultured Malassez's epithelial rest cells
30	4年次	田井 愛子	Changes in Dentition Over 20 Years From the Third Decade of Life
31	4年次	下島 隆志	Changes in the initial response of periodontal ligament due to differences in tooth movement speed with periodontal ligament distraction osteogenesis
32	4年次	内藤 紗絵	Assignment of Y-chromosome SNPs found in Japanese population to Y-chromosomal binary haplogroups
33	4年次	鮫島 道長	Population genetic study of six closely-linked group of X-STRs in Japanese population

	修了年次	氏名	学位論文題名
34	4年次	柄澤 健介	The Effects of Experimental Mandibular Deviation on the stepping Test
35	4年次	三島 攻	Effect of clenching and pinching force on cortex related to motor brain activity A fMRI study
36	4年次	大串 圭太	Recovery profile and patient satisfaction after ambulatory anesthesia for dental treatment- A cross-over comparison between propofol and sevoflurane -
37	4年次	Sultan Zeb Khan	Behavior of rat cultured dental pulp cells in collagen type-1 Gel <i>in vitro</i> and <i>in vivo</i>
38	4年次	島 秀仁	Cell differentiation of exposed dental pulp cells by tooth fracture
39	4年次	小杉 謙介	A longitudinal study of effect of experimental osteo prosis on bone trabecular structure in rat mandibular condyle.
40	4年次	河地 誉	Deletion polymorphism at chromosome 3g26.1 and oral squamous cell carcinoma.
41	4年次	田村 直樹	Three dimensional finite element analysis of bone fixation in bilateral sagittal split ramus osteotomy using individual models
42	4年次	柯 文昌	Copy number changes of CRISP3 in oral squamous cell carcinoma
43	3年次	塚越 絵里	Diazepam enhances production of diazepam binding inhibitor (DBI), a negative saliva secretion regulator, localized in rat salivary gland

※タイトルは、学位論文審査時のもの、また掲載論文では掲載時のもの

大学院学生部より 高い志を

大学院学生部長 末石研二

平成22年度に大学院生は臨床系135名、基礎系26名の計161名が在籍している。学年あたり約34名が在籍しており、本学卒業生以外のものもいるが、単純に割合で考えると、学部学生の4人に1人が大学院に進学している事になる。既に大学院に進学し、学位取得を目指す事が特別な事ではない時代となっていると言えるが、それでも大学院生には次代の大学を支え、歯科医学の発展を託す人材として高い志を薫陶して頂きたい。

学生部長は大学院生の厚生補導の総括にあたり、大学院学則にあり、有意義な大学院生活を支えるべく、その任を果たしたいと思っております。

大学院修了式

平成23年3月25日に平成22年度大学院歯学研究科修了式が、病院管理棟2階、第一会議室で執り行わ



れました。最初に東北関東大震災の犠牲者への黙祷が行われた後、本年度大学院修了生 38 名はこの日のために準備したアカデミックガウンと帽子を装い、金子学長より修了証を授与されました。厳粛な中にも喜びあふれる式典となりました。終了後に 2 回に分けて記念写真を撮影したあと、修了生は恩師を囲んで思い思いに記念撮影を行っていました。

学生会室のご案内

講座に所属し、なかなか交流の機会が無い大学院生活ですが、口科研での研究や他講座への研修の機会もあり、大学院生の交流の機会をはかる事が研究を進め、大学院生活を過ごす上でも重要になると考えます。千葉校舎基礎棟に大学院学生会室を設置いたしました。是非ご利用ください。

日本学生支援機構奨学金について

大学院生に関する奨学金として、日本学生支援機構からの無利子の奨学金制度があります。この日本学生支援奨学金の募集については、毎年4月中旬に本学の採用数が提示されてから各大学院生に周知しています。

例年、採用枠数は、第1種奨学金（無利子）で10数名ですが、その対象は1年次となっており、定員が充足されない場合に限り2年次以上の応募が可能となっています。

詳細については、学生課までお問い合わせください (gakusei@tdc.ac.jp)。

学資利子補給制度について

このたび、東京歯科大学は（株）ジャックス、（株）オリエントコーポレーション）の2社と、提携学資ローン契約を締結しました。これは、平成23年度入学者において、利子4.3%（固定金利）のうち3.0%を大学が1年間に限り利子補給する優遇制度を適応するものです。平成23年度学納金より利用が可能となります。

詳しくは大学事務局会計課までお問い合わせください。

事務部より

大学院事務移管について

本年度1月に大学院の事務業務が教務課から口科研研究支援部門へと移管されました。大学院の事務業務が教務課から口科研大学院事務に移行し、新谷准教授が教学（教務部と学生部）の担当責任者として東教務部長、末石学生部長の補佐を行うこととなりました。また、百崎大学院事務主任のもと、田所主任研究技術員が会議を担当するため大学院運営委員会ならびに大学院研究科委員会に入り、岡野主任研究技術員が大学院関係書類の電子化作業の担当、渡辺研究技術員、北澤研究補助員、森田研究補助員は大学院関係会議、大学院事務業務を補佐することとなりました。

大学院の事務は、基礎棟2階の口科研事務室で行いますので、所用の方はいらしてください。電話は内線3989、ファックスは043-270-3990となります。

大学院学生会だより

平成22年度大学院学生委員長あいさつ

歯科保存学講座 浅井知宏

平成22年4月に、本年度度東京歯科大学大学院歯学研究科学生委員長を前委員長である色川大輔先生から引き継ぎました。1958年に開設され、52年の伝統と実績そして多くの歯学博士を輩出した本校の学生会長を引き継いだことは誠に光栄であり、重大さを感じました。

今年度から井上孝教授が大学院研究科科長に就任し、より学生が組織的に主体性を持った活動が求められました。これまでの大学院生は講座内での研究・学生教育・臨床を中心に組み組んでおり、講座の枠を超える学生間同士の活動はほとんど見受けられませんでした。最近では口腔科学研究センターのリサーチアシスタントとして、また、学部生の実習ではティーチングアシスタントとして講座間の垣根を越えた活動が増えています。今後は水道橋校舎移転もあり、大学院生の変革する環境・活動に対応するため我々学生会は自発的かつ組織的な活動を試みました。

まず、大久保副委員長と共に学生委員会を立ち上げ、7月に学生総会を行いました。総会には金子学長、井上研究科科長、末石学生部長、東教務部長の立ち会いのもと過半数を超える85名の大学院生が出席しました。これからの学生委員会の活動方針を主な議題とし、有意義な総会が行えたと思います。

また、秋には学生がコミュニケーションをはかれる場所として千葉校舎基礎棟に大学院生専用の共有スペースを設置しました。

今年度も無事に43名の大学院生が学位審査を終え、今年初めて行われる大学院修了式と指導していただいた先生方を囲んでの学生会主催の懇親会に向けて学生会委員は日々準備に取り組んでいます。

今後、多くの課題が在りますがさらに活動を発展させ、大学院生にとってよりよい環境づくりを目指していきたいと思っておりますので、ご指導のほど宜しくお願いいたします。

平成22年度大学院学生総会を開催

平成22年7月12日(月)午後6時より第2教室において、平成22年度大学院学生会総会が開催されました。数年後に控えた水道橋移転では、大学院システムが大きく変化することが予想され、講座の垣根を越えた大学院生間での交流や情報交換が今後とても大切になってきます。しかし、現在の大学院には学生会が存在するものの活動はほとんどなく、また院生全体で集まり情報を共有する機会もほとんどありませんでした。そこで、今年度より「大学院学生総会」を開催し、まずは学生会の存在や活動目的、方針について大学院生のみんなに説明し理解してもらう機会を設けることとなりました。

当日は大学院生のみならず、金子譲学長、井上孝研究科長、末石研二学生部長、東俊文教務部長に出席していただきました。

はじめに、学生会会長・浅井知宏大学院生(歯科保存学講座)より大学院学生会の概要及び総会を開催した経緯について説明をした後、金子学長よりご挨拶をいただき、大学における研究機関や大学院の重要性及び水道橋移転を踏まえた今後の大学院の在り方について説明をいただきました。続いて、井上研究科長、末石学生部長、東教務部長よりご挨拶をいただき、最後に学生会副会長・大久保信貴大学院生(歯周病学講座)より学生会の活動の目的・趣旨及び今後の活動方針について説明をしました。

当日は、研究や診療後の忙しい中85名の大学院生が出席しました。大学院生の合計は163人なので半数以上は出席したことになりますが、出席が難しい社会人大学院生や水道橋病院、市川病院の大学院生を除くと約7割近くの大学院生が出席したことになり、とりあえずは今回の総会の目的の1つである「大学院学生会」というものの存在は多くの大学院生に認識してもらえたのではないかと思います。

これから本大学が大きな変化を迎える中で、様々な活動を通して他講座の大学院生や指導者との交流を行い、自分たちのレベルアップを図ることが重要になってきます。その第一歩としてこのような総会を大々的に開催できたことは、今後さらに学生会の活動が活発になりしっかりした組織になる足掛かりになったと思います。(学生会副会長・大久保信貴 (歯周病学))

東歯祭無料歯科相談

第42回東歯祭が平成22年10月30日(土)・31日(日)の2日間にわたり開催され、大学院学生会として「無料歯科相談」を行いました。これは毎年、教養棟1階において歯科衛生士専門学校の「ブラッシング指導」の横のブースで行われています。正直、ブラッシング指導の盛況に比べたらかなり地味な雰囲気ですが、それでも多くの方々に毎年来ていただいております。今回も約40人の来場者がいました。私自身、今回で3回目の参加なのですが、普段の外来とはかなり異なる環境なので、個人的にはとても有意義な経験になると思っています。やはり歯科診療室の中に入らずに歯医者に何かを相談するという機会はなかなか無いので、相談に来る方も本音で悩みや疑問を話してくれるような気がします。もちろん口腔内のことで悩みがあって来る方も多いですが、なかには恐怖心があって何十年も歯医者に通院していないという方の相談や現在通院している歯科医院の愚痴なども聞くこともあります。また親子連れも多く、小児歯科でないとあまり経験しない親への説明や小児への対応も必要です。色々な方々に応対することで、逆にこちらが勉強させられることも多く、それを日々の外来での診療に役立てていこうという気にさせられます。

今回は初日に台風による暴風雨に見舞われ、屋外の模擬店などは中止になったようですが、我々は2日間大きなトラブルもなく無事に仕事を全うできたと思います。来年度以降も一般の方々と歯科医院との懸け橋となれるように微力ながら、この活動が継続していくことを期待しています。(学生会副会長・大久保信貴 (歯周病学))

～編集後記～



大学院研究科長を囲んで

(左より百崎大学院事務主任、東 大学院教務部長、井上大学院研究科長、末石大学院学生部長、新谷教学担当責任者)

大学院広報活動の一環として、大学院たよりを刊行する事といたしました。年度末から年度始めに刊行し、4月より行われる大学院カリキュラム等の大学院教育活動の予定をお伝えし、また前年度の記録をしたため、大学院生にとって役立つ便りとなる事を願っています。(末石 記)